

工夫していること

資機材や備蓄品をそろえるには経費がかかります。そこで各家庭で不要になった衣類や毛布、工具類、大きな釜などを提供してもらって充実にさせています。

また、皆さんに防災への関心を高めてもらうのと同時に地域の物として意識して欲しいという思いから、小学生にも協力してもらい、防災資機材倉庫にかわいい絵を描きました。消火栓ボックスも同様の考えから72あるすべての消火栓ボックスに組名を表示し、各組長に点検や管理をお願いしています。



▶コンテナを改装して設置した防災資機材倉庫

地震や台風で転倒する心配がなく、扉は観音開きで資機材の収納・搬出がしやすくなっています。

また、心肺蘇生訓練では陣の森会館の清掃と併せて実施し、毎月2組（約20人の参加）に講習を受けてもらっています。何かの行事に合わせて実施することで受講できる人が増え効果的です。



▲何かと役に立つメモ帳や筆記用具が備え付けてあります。

地域内をみると、時間帯によっては子どもだけになる家庭もあり、そうした子どもや一人で移動が困難な人など約100人ほどを、災害発生時に援護が必要な人として登録しています。年に一度、各組長を通じて全戸に照会し、すべて本人・家族の了解を得て名簿に反映させ自治会内で共有しています。

そのほか、認知症徘徊者の搜索を想定した訓練も実施しており、優しさと思いやるNo.1のまち速水をめざします。



▲認知症徘徊者搜索活動「まち歩き声かけ体験」の様子

地域に対して思うこと

『絵にかいた餅になったらあかん』と常々思っています。どんなによい体制や資機材を整えても、実際に機能しなければ何の意味もありません。

訓練内容の検討会議で取組みに消極的な意見が出ることもあります。まずは実行に移してみ、失敗や課題がでてきたらまた練り直せばいいというくらい心の構えで、前に踏み出し行動するようにしています。これを繰り返して、どんどん良くなっていけばいいわけです。

最近の災害をみていると想定を超えるものがやってくるもおかしな気がします。また、私自身も支援する立場からケガなどで援護してもらい立場になるかもしれません。現状に決して満足せず、できることから少しずつやっていきたいと思っています。

自分の家だけ幸せでよかつたらそれでいいとは思いません。ご近所、地域が安泰でこそ、地域全体が幸せを感じられるのだと思います。

今後は地域で活躍いただける防災リーダーをもっと増やし、将来にわたって災害に強い地域をみんなで作っていききたいと思っています。そして相乗効果で地域内の交流が深まり、速水を住みやすいまちにしたいと思っています。

災害は必ずやってきます。

実際の災害時に活かす

速水自治会長 杉田 好夫さん

自治会員の皆さんに日ごろから防災意識をもってもらえるよう、また、いざというときに自治会として迅速な対応がとれるよう取り組んでいます。これまでの自治会の取組みが評価され、10月に滋賀県知事から優良自衛消防隊表彰をいただくことになりました。この表彰に恥じないよう、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識のもと、訓練等で得られた経験を活かし、今後も安心安全な地域づくりを進めていきたいと考えています。

他人への気配り

組長 多賀 寛男さん

実際の災害発生時には、自分や家族のことはもちろんのこと、組内の安否確認や安全な避難誘導など、率先して行動しなければならぬと思っています。うちの組は特にお年寄りが多いので、普段から気配りすることを意識しています。

先日、夜間に地域一帯が停電しましたが、そのときも、要援護者宅の様子をみて回りました。



▲各組長用の非常持出袋
組名ブラカードやメガホン、組内の会員、要援護者の名簿などが入っています。

家庭から始める防災

自治会員 押谷 喜美子さん

自治会の訓練には、家族の誰かが必ず参加しています。防災委員会の方々から、毎年いろいろな防災についての知識を教えてくださいました。

家にはいざというときに備え、非常持出袋を用意しています。自治会からいただいた防災マップや市からのハザードマップはダイニングの壁にかけておき、気になったときにすぐに確認できるようにしています。家族団らんの中で、時々、防災のことを話題にします。



▶押谷家の非常持出袋
ラジオ付懐中電灯、水、合羽、笛、ロープ、シートなどが入っています。



▲防災マップ
組ごとに色分けされ、消火栓や防火水槽、一時避難所などの情報が記載されています。

命を守る 自助・共助・公助の連携

ひとたび大規模な災害が発生したときに、被害の拡大を防ぐためには、行政の対応（公助）だけでは限界があります。自分の努力によって身を守る（自助）とともに、地域で互いに協力し合いながら、防災活動に取り組むこと（共助）をお願いしなければなりません。ですが、災害の種別、地域の自然的・社会的条件、住民の意識等が地域によって様々であることから、地域の実情に応じた共助が求められます。そして「自助」「共助」「公助」が有機的につながることによって被害の軽減が図れます。

地震や台風などの自然災害を完全に防ぐことはできません。「これぐらいなら大丈夫」と思い込みで行動せず、日ごろから十分に備え、災害の怖さや自然現象の危険性を認識し、確かな情報に基づく状況判断で自分の命や大切な人を守りましょう。

市では、災害から市民の命を守るため、防災・減災につながる様々な取り組みを進めています。また、地域防災力の向上を図るため、市民、企業、防災関係機関などが一致団結して総合防災訓練を実施したり、自主防災組織への支援を行っています。

詳しくは市のホームページをご覧ください。

図 防災危機管理課（☎65 - 6555）



総合防災訓練等の実施

災害応急対策の習熟と各防災関係機関相互の協力連携体制の確立を図るとともに、防災行動力の向上と防災意識の高揚を目的に毎年実施しています。（見学自由）

総合防災訓練

【と き】10月19日（日）
【ところ】西浅井中学校
駐車場



原子力防災訓練

【と き】11月16日（日）
【ところ】伊香具小学校



姉川コミュニティ防災センターについて

地域防災情報室、訓練・体験研修室、資機材・備蓄品倉庫、展示ホール等で構成。訓練や研修の場として、また、自主防災組織をはじめコミュニティ組織の育成や連携を図るためにひろく利用いただけます。

草の根防災体制育成事業補助金

地域住民による自主防災組織育成および防災意識の高揚を図るため、自治会等が行う防災に関する事業経費の一部を、予算の範囲内で補助します。

防災行政無線の整備

地震・水害等の災害に関する情報や災害時あるいは災害発生のおそれがある場合に、避難勧告や避難指示などを迅速、安定的にお知らせするため、防災行政無線（デジタル化）の整備を進めています。

防災出前講座

本市で想定される災害の種類や危険性をお知らせするとともに、日ごろから各家庭で取り組むべき事項や自主防災組織の必要性・作り方などを中心に説明します。